

<p>経営理念(ミッション・ビジョン) ・よりよく積極的に生きるための基盤として「郷土を誇りに思ふ心」を育て、地域や社会に貢献しようとする意欲や態度をもった人材を育てる。 ・変化の激しい社会の中で、グローバルな視点を持ち、国籍や互いの立場の違いを超えて、協調し協働して生きていくことができる力をつける。 ○育成したい資質・能力 ①「コミュニケーション能力」 ②「課題を発見し解決する力」 ③「乗り越える力」</p>	<p><学校教育目標> 「文武両道」 すすんで きたえ みがき のびる ～社会の変化に対応できる心豊かでたくましい子どもの育成～ <めざす学校像> ○すすんで……………子供の主体性を伸ばす学校 ○きたえ・みがき……………個々の持ち味を発揮させる学校</p>	<p><甲奴中学校区のめざす子供像> 「ふるさと甲奴を誇りに思い、自らの未来を切り拓いていく子供」 <甲奴小のめざす子供像> 「文武両道」をめざす子供 ☆自分が好き…夢(目標とする姿)を持ち自ら進んで最後までねばり強くやりぬく子供 ☆友だちが好き…友だちのよさを見つけ、自ら進んで一緒に働き、遊び、学ぶ子供</p>
--	--	--

評価計画	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	指標 (効果を見とる目安)【担当】	目標 値	自己評価						結果の分析	改善策
						7月			12月				
						達成値	達成率	評価	達成値	達成率	評価		
確かな学力の育成	「コミュニケーション能力」の育成	○基礎的・基本的知識・技能の習得と定着	・外国語教育での単元開発の手法を各教科に活かした授業改善に努める。 ・基礎的な知識や技能の定着を図るパワーアップタイムの充実を努める。	・評価テスト(国語・算数)で得点が80点を超える児童の割合【小原】	70%	77.9%	111%	A	81%	116%	A	・国、算の評価テストは、全体を通して概ね定着しており、目標値の70%を10%以上超えて達成できた。しかし、学年差が大きいのは依然として変わらず、高学年になると達成値が低くなる傾向も見られた。 ・基礎学力の向上及び定着を図るために、1年間計画的にパワーアップタイムに漢字や百マス計算に取り組んだ結果、児童の自己評価も91%と高い結果となった。指導者評価も83%と中間報告より上がった。しかし、学年差が見られた、実施形態等の統一が図られていなかったためと考える。	・評価テストについては、かなり学年差があるため、今後も個別指導及び児童実態に合った授業改善を図っていく。また、全国学テの分析で明らかになった課題に対する取り組みの中から、問題の二度読みや速読及び百マス計算など、全校で共通して取り組む。指導者にも共通認識を図り、確実にやっていく。
		○対話のある授業づくりによる思考力・判断力・表現力、学びに向かう力の育成	・外国語教育及び各教科において、単元ゴールが明確な授業を行い、適切に評価し授業改善、教育課程改善につなげる。	・学びの変革を意識して「課題発見・解決学習」単元における振り返りでの肯定的評価の割合(児童自己評価)【梅田】 ・単元ゴールを明確にした授業の充実度合い。(指導者による相互評価)【土井】	80%	88.5%	111%	A	87%	109%	A	・単元ゴールを明確にし、課題発見・解決学習の単元として取り組んだ学習に対する児童の自己評価は、96%と中間報告と同様に、かなり高い結果となった。1年間、児童にめざす姿や力を明確にし、フィードバック(単元ゴール)を意図した授業を行った成果だと考える。また、2学期実施した本校以外の指導者評価は84%となった。参観授業が、外国語科・外国語活動が中心だったため評価も高く見られた。次年度は、評価しやすい様に研究推進テーマや教科の精選を図る必要があると考える。	・次年度もフィードバック(単元ゴール)を意識した授業改善を図っていく。また、研究テーマや教科については、これまで外国語科・外国語活動で培った事を他教科に広げて行ってきたが、次年度は、算数科に絞り全教職員が、相互評価しやすいようにしていく。
		○学びに向かう力の育成	・外国語教育及び各教科において学習リーダーを中心とした学習に取り組む。児童が主体的に学び合えるよう授業改善を行う。	・学習リーダーを中心に自ら進んで学ぶと肯定的評価の割合(児童自己評価) ・指導者が互いに授業を見合い、学習リーダーを中心に自ら進んで学習に取り組む授業の度合い(指導者による相互評価)【長手】	80%	81.6%	102%	A	82%	102%	A	・複式学級を経験した高学年(4～6年)は学習リーダーに対しての肯定的評価が中間と同様に高く、自分達で主体的に学習を進めていくという意識が定着してきたと考える。児童の自己評価は、81.7%と目標値は大きく上回っているが、学年間に少し差が見られた結果から、学習リーダーの在り方やリーダーノート等に対する研修不足があったと考える。学級実態や学年実態に応じた学習リーダーの在り方については、今後研修を深める必要がある。	・次年度、主体的な学びをより高めるために、学習リーダーやリーダーノートの研修を年度当初に行い、指導者の力量を高めていく。 ・学年実態及び児童実態に応じたリーダー学習の取組を進める。また、児童が形式的であっても授業を進める事が、ある程度主体性の向上につながるかと考えて、前学級でリーダーの導入を行っていく。
豊かな心の育成	規範意識を高め、思いやりの心を育成する	○規律ある学校生活 あいさつ 無言掃除 無言集合	・一斉下校、朝会時等における全体指導 ・挨拶は、「いつでも・どこでも・だれにでも」を徹底する *学期数回挨拶週間を実施 ・月ごとにテーマを決めて児童会掲示板を利用し、友だち同志相互評価する	・「あいさつ・無言掃除・無言集合」に関するアンケートで肯定的に自己評価する児童の割合、及び教職員の見取り調査 ・あいさつの振り返り(児童自己評価)【小田】	80%	97%	112%	A	97%	112%	A	・児童は肯定的評価が高く、相手に対して思いやりのある行動を意識しながら、生活を送ることができている。 ・「にこにこボックス」「思いやりボックス」の活用や道徳科での指導、異学年交流での話し合い活動によって、思いやりの心を育成できていると考えられる。 ・昨年度の課題であった指導者と児童の評価に差についても改善してきている。 ・今年度の重点項目である挨拶については、児童会による挨拶運動や、全校での声掛け等で意識が向上してきている。 ・しかし、課題として「自分から」の挨拶の意識をさらに向上させる必要がある。 ・無言集合・無言掃除については、場面を意識して行動できるようになってきている。	・挨拶は、「あいさつのじ・だ・い」を引き続き指導していく。 ・「自分から」の課題解決のため、挨拶の木(2月実施予定)を活用し、視覚化することで自身の挨拶に対する自己評価を高める。 ・児童会と連携して、模範となる挨拶を日常的に意識できるようにしていく。 ・無言集合については、引き続き朝会時や一斉下校時に肯定的評価を行う。 ・無言掃除は、無言で時間いっぱい掃除をすることを継続的に指導していく。
		○思いやりの心の育成	・ふわふわ言葉の常態化をめざす生活指導 ・道徳の時間の充実 ・縦割り班遊びを通して異学年との関わりを深める	・「思いやりの心」に関するアンケートで肯定的に評価する児童の割合【野曾原】 ・「思いやりの心」育成に関する教職員の見取り調査【野曾原】	80%	97%	121%	A	95%	119%	A	・児童の肯定的評価が高く、相手に対して思いやりのある行動を意識して生活することができている。しかし、「自分から声を掛ける」項目で、否定的に評価する児童が増えた。 ・教職員の見取り調査において、12%増加している。各学年での道徳の時間の充実、思いやりの心の育成に係る学級での取組等、児童の生活の中に常態化してきていると考えられる。 ・課題としては、「自分から」の行動が意識できるよう、児童の行動を見直していく必要がある。	・「にこにこボックス」を活用し、他学年同士でお互いを認め合う場を設ける。児童会による放送で、思いやりのある行動のよさや自分から行動することができたことのよさを伝える。 ・異学年交流の場を設けるために、昼休憩に異学年同士のレクリエーション活動をしたり、縦割り班活動時に指導者が声掛けをしたりする。
		○体力の向上	・外遊びの推奨(毎週水曜日は、外遊び奨励) ・毎週月・水・金曜日にランタイム(業間運動)を設定し、月の最終金曜日に縦割り班遊びを実施 ・水泳記録会、マラソン大会、縄跳び検定の自己目標の設定	・新体力テストの分析に基づく取組の結果、平均値を上回る児童の割合【信野】 ・自己目標を達成した児童の割合【信野】	70%	45%	64%	C	100%	124%	A	・甲奴小学校の体力課題の一番は「握力」であったが、特化した取り組みを行ったので想定した数値以上の結果が(取組も)運動して現れた。天候に左右されたこともあり多彩な外遊びができなかったのは残念である。 ・「握力」に焦点を当てて自己目標を達成することができた児童の割合は、目標値を十分超えることができた。その他の項目についての取り組みは来年度の課題とした。	・握力については、次年度「グーパートレーニング」を一斉下校と学級朝会で必ず行うことにより、児童の体力向上の意識を高め、握力の向上に努める。また、発達段階に応じた強度と多様な形式のハンドグリップを各階に複数ずつ置きいつでも触れるようにし、児童のやる気を継続させていく。 ・毎週水曜日の外遊びを奨励していく。
健やかな体の育成	自ら目標を持ち、進んで体力の向上、健康の保持増進に取り組む意欲・態度を育てる	○健康的で規則正しい生活の実践	・朝食、生活リズムについて全体指導をする ・アンケートによる基本的な生活習慣の実態把握 ・ノーメディアデーの実施	・朝食・生活習慣に関するアンケートで、肯定的に評価する児童の割合【岸・柚木】 ・ノーメディアデーに関するアンケートで肯定的に評価する児童の割合【岸・柚木】	80%	83%	103%	A	82%	103%	A	・生活習慣に関するアンケートでは、朝食の喫食はどの学年もよく摂っていた。上の学年になるほど、自ら決めた時間を守ることが難しくなっている。取組方も児童への意識づけの工夫が必要である。決めたメディア時間が守れなかった児童がストップ9が守れなかったり、ストップ9が守れなかった児童が夜寝る時刻を守れなかったりと生活リズムのズレが複数に影響している児童がみられる。個人で決めたメディア時間も1日20分の児童もいれば、1日8時間の児童もいる。時間設定の仕方と時間を設定する時に指導する必要がある。 ・ノーメディアデーの取組では、保護者からも肯定的な評価を得られているので引き続き取り組む。	・生活習慣での取り組みでは、児童への意識づけや時間設定の仕方についてのきめ細かい指導を行い、生活習慣を整えさせていく。保健体育朝会や保健だより等で、養護教諭や栄養教諭が関わり、生活リズムについての保健指導も引き続き行う。 ・ノーメディアデーの取組については、メディアから離れ児童と保護者のふれあいの時間として、継続して取り組む。
		○危機管理の徹底と指導力の向上	・感染症対策を含めた危機管理体制の充実 ・コミュニティ・スクール立ち上げの準備と研修を行う ・研修等による指導力の向上	・危機管理対策研修を学期に1回以上行う ・危機管理体制について、保護者アンケートでの、肯定的評価【教頭】 ・コミュニティ・スクール立ち上げの準備と研修について、教職員アンケートでの、肯定的評価【教頭】 ・指導力の向上について、児童・保護者アンケートでの、肯定的評価【教頭】	85%	94%	111%	A	95%	112%	A	・毎月1回主体的な取組になるよう、担当者を決めて危機管理対策(不祥事防止研修)を行った。これについては100%達成。学校の危機管理対策についての保護者の肯定的回答は89%概ね肯定的評価をいただいているが、校門がなく不審者等の侵入や通学路の危険箇所などへの心配等の意見があった。 ・8月4日の甲奴中学校区合同研修会で「小中連携の在り方 コミュニティ・スクール導入について」というテーマで三次市教育委員会の山本和典指導主事を招き、甲奴地区の小中学校教職員で共通理解を図った。その結果、教職員アンケートでの肯定的評価は100%であった。 ・指導力の向上に関する保護者アンケートの肯定的評価は「学習のルールが守られた授業が行われている。」が100%、「子供は授業が分かりやすい」と言っている。」が93.5%であった。これは中間報告時より6.5ポイントであった。授業は落ち着いて成立しているが学習が難しくなっていると感じている保護者が増えている。	・保護者の意見や不安を解消するよう要望を関係諸機関に出し連携をとる。また毎朝の校内消毒、毎月の安全点検、不祥事防止委員会、いじめ防止委員会、衛生委員会等を活用し安心で安全な学校を目指す。 ・コミュニティ・スクール導入について、今後とも情報の収集、職員への情報提供、関係諸機関との密な連携を通して、コミュニティ・スクール導入を推進していく。
		○安全・安心で信頼される学校をめざす	・危機管理の徹底と指導力の向上	・危機管理対策研修を学期に1回以上行う ・危機管理体制について、保護者アンケートでの、肯定的評価【教頭】 ・コミュニティ・スクール立ち上げの準備と研修を行う ・研修等による指導力の向上	85%	100%	118%	A	100%	118%	A	・1月に行われたが三次学カテストの結果を的確に分析し、弱点補強に努めるとともに児童が主体的に取り組む、わかりやすいと感じる授業となるように日々の授業改善の取組にいく。	